

地震ドイン

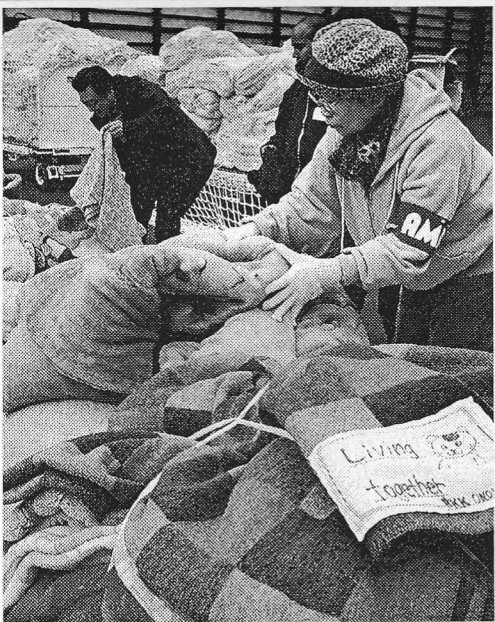
# 善意の毛布2000枚

## AMDAきょう空輸

インド西部大地震で、緊急医療支援を続けているアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市）が一日、日本からの支援物資を航空機で輸送する。搬送される物資は、AMDAからの呼びかけで、わずか一日で市民らから寄せられた約二千枚の毛布、テントなど。菅茂代表は「岡山の市民の温かい気持ちを現地に届きたい」と話している。

AMDAは地震発生直後の二十七日、多国籍の医師団を現地に派遣。メンバーが震源地のグジャラード州の隣接するカッチェ州アンジャールで活動を開始したが、被災地は家屋の倒壊が激しく、夜間も冷え込んでいることから、テントや毛布など生活必需品が必要と、AMDA本部に連絡した。

この日は朝から、市民自らが出発地の岡山空港に運び込み、ボランティアの市ヤーター便の飛行機（積載量四十ト）で支援物資を運ぶことを急ぎよ決定。三十日朝から、物資の提供を呼びかけたところ、毛布やテントなどのほか、倒壊家屋の掘り起こしなどで必要になっているパワースイッチの提供もあった。



全国から寄せられた支援物資の毛布を仕分けするAMDAのボランティアら